

# 魚病診断結果

田中真二・倉田恵吉・宮本敦史・羽生和弘・宮崎優太

## 目的

県内の養殖魚等の魚病発生状況を把握するとともに、その対策指導を行い、魚病被害の軽減を図る。

## 方法

令和3年4月～令和4年3月に水産研究所、同尾鷲水産研究室および同鈴鹿水産研究室に診断依頼のあった魚介類について、病気の診断を行った。

## 結果

総診断件数は289件（海産魚287件、淡水魚2件）で、過去10年間の平均（約286件）と同程度であった。

魚種、魚病別の診断結果を表1～6に示す。

マダイでは、平成30年度以来3年ぶりにマダイイリドウイルス病が確認された。細菌病では、エドワジエラ症が最も多かった。昨年度に多発したレンサ球菌症（β型）は確認されなかった。寄生虫病では、心臓ヘネガヤ症が最も多かった。

ブリでは、昨年度に多発したノカルジア症が今年度も引き続き多かった。一方、平成30年度以来増加傾向であったレンサ球菌症（α II型）は大幅に減少した。

シマアジでは、昨年度と同様にレンサ球菌症（α I型、α II型）が多発した。

マハタでは、ウイルス性神経壊死症の診断件数が減少し（令和元年度25件、令和2年度16件、今年度9件）、聴き取り情報によると本症が発生した魚群の死亡率も過去2年間に比べて低かった。この理由として、昨年度に生産されたマハタ種苗の多くにワクチンの2回接種が行われたことが考えられる。

クロマグロでは、昨年度に続きレンサ球菌症（α I型）が多発した。また、これまでと同様、脊椎骨骨折も多く確認された。

その他の魚種では、ヒラメ種苗においてアクアレオウイルス感染症が当県では初めて確認された。

主要病原菌の薬剤感受性試験結果を表7に示す。エドワジエラ症原因菌では、ホスホマイシンカルシウムへの耐性菌が多かった他、昨年度に引き続き一部の漁場で塩酸オキシテトラサイクリンへの耐性菌が認められた。レンサ球菌症（α I型、α II型）原因菌では、フロルフエニコールと塩酸リンコマイシンへの耐性菌が多かった。

以上の魚病診断とは別に、マダイで10件、シマアジで5件、ブリとクロマグロで各1件の健康診断依頼があった。

コイヘルペスウイルス病については、3件の診断依頼があり、全て陰性であった。また、ヒラメの放流用種苗のクドア症（*Kudoa septempunctata*）検査を1件行い、陰性であった。

表1. マダイの診断結果

病名	年齢	月別診断件数												計			
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3				
マダイイリドウイルス病	0							2	5								7
リンパ性白血病	0												1	1			2
エドワジエラ症	0	1	1														1
エドワジエラ症	0				3	1								1			5
滑走細菌症	0															1	1
ヒバキ病	不明												1				1
エドワジエラ症	0						1	4	4	2	1						12
エドワジエラ症	1			1	1	1	4	1	1					1			10
エドワジエラ症	2				1	1	2										4
白点病	1								1	1							2
トリコナ症	0													1			1
心臓ヘネガヤ症	0				2	2	4	4									12
心臓ヘネガヤ症	1							3									3
皮膚カサシ症	0													1			1
心臓ヘネガヤ症	1																1
ヒバキ病	0				2					3		1					6
ヒバキ病	1		1	1	1												3
住血吸虫症	0						1										1
住血吸虫症	1						1										1
死カク鉤頭虫症	0								1								1
死カク鉤頭虫症	1									4							4
体表潰瘍	1			1													1
体表潰瘍	2	1															1
直腸穿孔	0									1							1
不明	0						1	1									2
不明	1					1	1	1									3
不明	4			1													1
不明																	1
計		2	1	7	11	7	29	15	10	3	2	1	2	1	2	90	

表2. ブリの診断結果

病名	年齢	月別診断件数												計			
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3				
マダイイリドウイルス病	0																2
レンサ球菌症（α II）	0					1	1									1	3
レンサ球菌症（α II）	1																1
ノカルジア症	0															1	2
ノカルジア症	1								1	6	2	4	2	4	2		21
シヨウケリア症	1								1	1	1						3
トリコナ症	0					1											1
織毛虫症（鰹腐れ）	1					1											1
心臓ヘネガヤ症	0														1		1
心臓ヘネガヤ症	0									2							2
テンクラリア症	0					1											1
輸送障害	0		1														1
不明	0		1	1				2									4
不明	1					1		2		3							6
計		0	2	2	4	2	6	10	6	6	3	4	4	4	4	49	



表7. 主要病原細菌の薬剤感受性試験結果

エドワジエラ症 原因菌 (マダイ)

薬 剤 名	菌 株 数				計
	-	+	++	+++	
塩酸オキシテトラサイクリン	1			17	18
ホスホマイシン	2	9	4	1	16
オキシリン酸			1	4	5
アンピシリン	1				1
チアンフェニコール				5	5

α 溶血性レンサ球菌症 原因菌 (α I)

薬 剤 名	菌 株 数				計
	-	+	++	+++	
エリスロマイシン				32	32
塩酸オキシテトラサイクリン			1	27	28
フロルフェニコール			6	12	18
塩酸リンコマイシン	4	7	10	1	22
ドキシサイクリン			1	1	2

α 溶血性レンサ球菌症 原因菌 (α II)

薬 剤 名	菌 株 数				計
	-	+	++	+++	
エリスロマイシン				17	17
塩酸オキシテトラサイクリン				14	14
フロルフェニコール		3	5	8	16
ドキシサイクリン				2	2
塩酸リンコマイシン	14				14

ビブリオ病 原因菌

薬 剤 名	菌 株 数				計
	-	+	++	+++	
塩酸オキシテトラサイクリン				5	5
オキシリン酸			3		3
エリスロマイシン	1	4			5
フロルフェニコール				3	3
チアンフェニコール				1	1

ノカルジア症 原因菌

薬 剤 名	菌 株 数				計
	-	+	++	+++	
スルファモノメトキシシン				5	5
スルフィソゾール				3	3
塩酸オキシテトラサイクリン				2	2
エリスロマイシン	1			2	3